

一般質問

6月定例会



伊藤 好晴 議員

Q 新型コロナウイルス 感染防止のために

近隣市町での発生状況などがわからないという声をよく聴く。感染防止のうえからも正確な情報を広く町民に知らせるのが得策と思うがどうか。三次市についても情報が少ないが、生活圏である。詳細を知らせたいと思うがどうか。高齢者施設のワクチン接種は終了したとのことだが、感染がゼロになったということではない。従事者への定期的なPCR検査を提案する。高齢者への接種が7月に終了する自治体は、自ら優先接種順位を決めることができる。子どもへの感染防止のため、保育所従事者・小学校職員へのワクチン前倒し接種を提案する。

A 優先接種はしない

町長塚原隆昭

これまでも、告知放送、文字放送で知らせている。情報を的確にとらまえ、様々な方法で、引き続き正確な情報、感染予防の徹底について知らせていく。

教職員、保育職員は優先順位に該当しないと思うので、キャンセル分で接種していく。



Q 学童保育の拡充を

本町では、厚生労働省が規定する「放課後児童クラブ運営指針」に則った放課後の子どもの居場所がない。全国状況をみても、人の配置、施設の広さ、財政措置など、どれをとっても不十分である。現状をどう認識しているか。

保育時間の延長など、保護者の切実な思いが寄せられている問題であり、積極的に取り組むべきだがどう考えるか。

保護者が安心して子育てができるシステムを、みんなが考えていく必要があると思うがどうか。

A 大切なこと

町長塚原隆昭

充実した環境で、居場所を提供することは大切なことと思っている。

A 長期的視野で

教育長大谷哲也

本町では、厚生労働省の運営指針に基づく児童クラブは



放課後子ども教室(志々地区の「みのりん畑」)

設置できていない。制度の見直し等は言及できない問題である。

運営する組織をつくるなど、抜本的な見直しをしないと実現しないと感じている。まずはいまの体制の中で、できることを少しずつやっていくしかない。長期的に取り組んでいく。

保護者が安心して子育てができる町にしたいという思いは強い。

一般質問

6月定例会



景山 登美男 議員

Q 小・中学校へ自動 水栓を

新型コロナウイルスの「接触感染」対策としては「こまめに手洗いをする」と言われているが、普通の蛇口では手洗いの後に汚れが再付着し防菌効果が減る。

それに対して、手をかざすだけで水が出てくる「自動水栓」は、特に不特定多数の人が使用する手洗い場の感染予防対策として効果的である。

最近増えてきている新型コロナウイルスの変異株は、子どもへの感染が増えている。仮に学校でクラスターが発生すれば、



自動水栓

次は家庭内感染につながる恐れもある。

そういう観点からも、町内の小・中学校でも自動水栓化すべきと思うが、教育長の考えを問う。

A 必要な措置を検討

教育長大谷哲也

学校では、手洗い・うがい・マスクの着用や不特定多数が触る箇所などのアルコール消毒など、徹底した感染予防対策を行ってきた。

学校の自動水栓化については、レバー式との比較も含め検討する。

Q 消防団員の減少

地域住民によって構成される消防団は、火災発生時の初期活動や災害時の避難誘導、救助活動などを担う地域防災力の中核である。

しかしながら、本町の消防団員は、定員300名に対して実員257名となっており、地域防災の担い手をどう確保するかが課題である。

去る4月1日、松江市島根町加賀で32棟が被災する大規模火災が発生したが、日中、消防団員が地域に不在のため参加が遅れ、その結果初期対応が遅れたと指摘されている。

雲南市では、消防団の経験がある方に、火災発生時の消火活動や災害発生時の消防団活動のみに従事し、訓練や式典などへの参加は不要とする「機能別団員制度」を導入したとのこと。参考にすべきと思うがどうか。

A 人材の確保が基本

町長塚原隆昭

消防団員の減少が続いているが、地域の若者が減少する中で担い手の確保に苦慮している。

消防団OBに現場で消火活動をしてもらう「機能別団員制度」は、県内に導入している自治体もあることから、調査研究するとともに、消防団とも協議しながら検討したい。



消防出初式